

函館市縄文文化 交流センター


※展示資料は入れ替わることがあります。

南茅部周辺の縄文文化を集めた博物館



はこだてしじょうもんぶんかこうりゅうせんたー

函館市縄文文化
交流センター



▲WEB MAP

所 函館市白尻町551-1
Tel. 0138-25-2030
時 9:00～17:00(11月～3月は16:30閉館)
休 月曜(祝日の場合は翌日)、毎月最終金曜及び年末年始
料 大人300円 学生・生徒・児童150円
ガイド 要事前予約
P あり
Taxi 函館市内から約60分、大船遺跡から約8分
バス 函館駅から函館バス「川汲経由鹿部行き」乗車90分、「垣ノ島遺跡下」下車、徒歩約7分

函館市縄文文化交流センターは国宝の中空土偶を展示する博物館として、2011年に南茅部地域の白尻地区にオープンしました。展示資料保護のため照明を落とした展示室には、垣ノ島遺跡をはじめ、大船遺跡や周辺の縄文遺跡から出土した選りすぐりの優品が集結。縄文文化を知るための入門的施設として、北海道を訪れる人に最初に案内したい場所です。



函館市縄文文化交流センター外観



北海道唯一の国宝である中空土偶。落ち着いた空間で精密な文様やミステリアスな表情を四方から眺めることができます。

北海道唯一の国宝・中空土偶に会える
渡島の縄文文化を知るための入門施設です。
子どもの足形付土版(p5)も
展示しています。



注口土器(八木B遺跡)



下部有孔土器(八木B遺跡)

ひとつの住居跡からセットで出土しました。下に穴が開いた土器は女性を、上向きに注ぎ口がついた黒い土器は男性を表しているという説も。

割れた土器の接合や矢尻と柄を固定する接着剤として使われていました。アスファルトは露地で採取できる秋田などから運ばれていたようです。



赤彩土器(白尻C遺跡)

小さなコブがリズムカルに踊るパンクな土器。文様部に赤い彩色の跡がみられ、当時はもっと派手だったことがわかります。



土器に入れられたアスファルト(豊崎N遺跡)